

# 日本医療・病院管理学会誌

Vol. 53  
Supplement

Journal of the Japan Society for Healthcare Administration

September 2016

第 54 回 日本医療・病院管理学会学術総会演題抄録集

会 期：平成 28 年 9 月 17 日（土）・18 日（日）

学術総会長 川淵 孝一（東京医科歯科大学大学院医療経済学分野）

日本医療・病院管理学会  
Japan Society for Healthcare Administration

## 第54回日本医療・病院管理学会 学術総会プログラム

テーマ：創造的破壊～医療の質の向上と効率化の同時達成を目指して～

会期：平成28年9月17日（土）～18日（日）

会場：東京医科歯科大学 M & D タワー 鈴木章夫記念講堂（2階）

■学術総会長挨拶：9月17日（土）8:30

川渕 孝一（東京医科歯科大学大学院医療経済学分野）

■特別講演：9月17日（土）8:45～9:25

日本の財政と医療

講師：伊藤 元重（学習院大学国際社会科学部）

■鼎談：9月18日（日）9:00～10:00

なぜ「異論」の出ない組織は間違うのか

鼎談者：宇田 左近（ビジネス・ブレークスルー大学）

堺 常雄（一般社団法人日本病院会会長）

川渕 孝一（東京医科歯科大学大学院医療経済学分野）

■教育講演：9月18日（日）13:20～14:20

東京オリンピック・パラリンピック時代の医療観光

司会：川渕 孝一（東京医科歯科大学大学院医療経済学分野）

講師：寺前 秀一（人流・観光研究所）

■シンポジウム

シンポジウム1：9月17日（土）9:30～11:40

アベノミクスと医療の国際化

座長：杉浦 哲郎（一般社団法人 日本経済調査協議会 専務理事）

演者：近藤 達也（独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）理事長）

辻井 博彦（量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所）

渡辺 賢治（慶應義塾大学環境情報学部）

布施 達朗（セコム医療システム株式会社 代表取締役会長）

グラドコフ・アレクセイ（株式会社 Cells Power CEO）

シンポジウム2：9月17日（土）13:20～14:50

ビッグデータが私たちの医療・健康を変える！

座長・基調報告：森川 博之（東京大学先端科学技術研究センター）

演者：武田 秀樹（株式会社 FRONTEO 取締役 CTO 行動情報科学研究所 所長，  
株式会社 FRONTEO ヘルスケア 取締役）

落合 慈之（東京医療保健大学医療保健学部教授（非常勤），NTT東日本関東病院名誉院長）

植草 徹也（株式会社ボストン・コンサルティング・グループ）

## 漢方産業の創出に向けてのロードマップと課題

渡辺 賢治（慶應義塾大学環境情報学部）

伝統医学は本来ローカルな医療として、世界の各地域で継承されてきた。それがグローバル化され、急に注目を浴びるようになったのは、1990年代に欧米で「補完代替医療」が注目され始めてからである。その後中国や韓国が国策として積極的に自国の伝統医療を世界市場に売り出したことより、今では中医学・韓医学を行う国や地域は世界中に広がっている。医学雑誌も数多く出版されるようになり、学会も増えている。世界での伝統医学に対する関心は高まる一方である。中でも薬の質が高い漢方医学は世界中から注目されており、海外の事情は国内での漢方医学の事情とは相当に乖離がある。

そんな中、日本経済調査委員会の委員として発言の機会を頂戴した。発表者の提言は①薬草栽培による攻めの農業の育成、②薬草を用いた健康食品・化粧品市場の開拓、③医薬品としての薬草使用の市場形成、④薬草を輸出産業にするための障壁の撤去、の4つの要素から構成されている。これらをまとめると、上流から下流まで含めた漢方のバリューチェーンを作り、わが国で六次産業化する、という構想である。

医薬品や医療機器が輸入超過になっている中、漢方はわが国から海外に輸出できる可能性があり、しかも既にわが国で確立しているので、実行までにそう時間がかからない。中国・韓国との競争になる部分もあるが、協力しあえる部分も多々ある。また、わが国の技術を駆使した強みも活かせる分野でもある。

提言から4年経ち、いくつかの項目に関しては進捗したが、同時に課題にも直面している。2013年に漢方の産業化に関心の高い神奈川県、富山県、奈良県が発起人となり、「漢方産業化推進研究会」が立ち上がった。会員は産官学から構成され、2016年5月現在、11の県、15の市町村、18の企業、学校など8法人が参加して漢方の産業化推進のための方策について話し合いをしている。

多くの自治体が薬草・薬木栽培に関心を持つ中、農林水産省も予算措置をして、栽培技術の向上に取り組んだ結果、わが国の強みを生かした、薬草・薬木栽培の技術向上が起きている。課題としては、種苗の確保と農業技術指導である。今まで薬草栽培を行ってこなかった地域では、種苗を入手することが困難である。また種苗が優良であるかどうかを見極めることも困難である。種苗を一括して管理できるような種苗センターが必要である。

一方栽培を始めた自治体の中には、作ったものの売り先に困っているところも多々ある。漢方の市場1,400億円のうち、医療用が1,200億円を占めるが、医療用の漢方薬は薬価の縛りがあるため、安価な中国産に頼らざるを得ない。国産生薬の出口として、薬価に縛られない一般用漢方薬や化粧品などの商品開発は進んでいる。また、インバウンドとしては、奈良県が中国・台湾からの観光客を対象に奈良県産の生薬製剤の販売促進を開始したが、こうした海外向け市場の開拓も今後見据えていく必要がある。

## 【現職】

慶應義塾大学環境情報学部教授・医学部兼任教授

## 【略歴】

- 1984年 慶應義塾大学医学部卒業  
1984年 慶應義塾大学医学部内科学教室  
1990年 東海大学医学部免疫学教室 助手  
1991年 米国スタンフォード大学遺伝学教室ポスドクトラルフェロー  
1995年 北里研究所東洋医学総合研究所  
2001年 慶應義塾大学医学部東洋医学講座（現：漢方医学センター）准教授  
2013年 慶應義塾大学環境情報学部並びに大学院政策・メディア研究科 教授  
慶應義塾大学医学部 兼任教授，東京大学非常勤講師

## 【学会活動等】

日本内科学会内科専門医，米国内科学会上級会員，日本東洋医学会専門医，日本プライマリ・ケア連合会認定医・指導医，日本病院総合診療医学会認定医，漢方産業化推進研究会理事長，当愛学協会理事，日本臨床漢方医会副理事長，和漢医薬学会代議員，日本統合医療学会代議員，神奈川県顧問，奈良県顧問，社会保障審議会統計分科会 ICD 専門委員，WHO ICD 改訂委員会委員